慶應義塾大学理工学部體育會 75 年史刊行にあたって

理工学部體育會先輩団体連合会会長　宮﨑 吾郎

慶應義塾大学理工学部体育会先輩団体連合会は、理工学部創立 75 年を迎えるに当たり理工学部体育会史を初めて刊行することに致しました。

刊行にあたって、清家篤塾長、青山藤詞郎学部長・理工学部体育会会長、安西祐一郎名誉教授、貴志和生医学部体育会会長、西岡浩史三田体育会会長、星出彰彦宇宙飛行士各位にご寄稿を頂き心より感謝申し上げます。

また、刊行に向けご理解とご支援を賜りました青山学部長、相吉英太郎教授（理工学部 75 年誌企画・編纂担当）はじめ教職員各位、同窓会各位、理工学部体育会会員各位・現役の皆さんに心より感謝申し上げます。

理工学部の前身である藤原工業大学は、塾祖福澤諭吉先生の「自然科学」尊重の意志を継承し、理工科教育に熱い思いの小泉信三塾長と藤原銀次郎翁の会談に始まり、福澤先生の歿後殆ど 40 年経った 1939 年わが国初の単科工科大学として創立されました。

開校式では、小泉塾長より「第 1 期生は『我より古を作す』者であり藤原工業大学の歴史は君たちに始まる」、藤原理事長からは「諸君 200 名は私の初孫、諸君と共に官立大学と趣を異とする学風を作ろう」とのお言葉を頂きました。また饗宴の最中、機体にペンの徽章と鮮やかな三色の長旒を靡かせた航空研究会の飛行機が飛来、紅と青の通信筒が投下され中に航空研究会学生諸君一同の祝辞が認められていました。

翌 1940 年には、現理工学部体育会の礎である「鍛錬部」と称した体育団体 14 部（剣道部、硬式庭球部、硬式野球部、サッカー部、山岳部、卓球部、端艇部、軟式庭球部、軟式野球部、籠球部、ヨット部、ラグビー部、弓道部、陸上競技部）が創部されました。各部は、福澤先生の訓え「先ず獣身をなして後に人心を養え」、小泉塾長の「1. 闘いに勝たんとする強固な意志 2. 危機に臨んで失望しない不動心 3. 勝敗の転機を未動に察する直感力 4. 成否を賭して危険を冒す敢為精神」との当時の考えを礎に創立直後より盛んに活動しました。創部及び活動開始にあたって塾体育会の指導・支援を頂き、その年には対外試

合を行えるまで順調に歩み始めました。体育活動は、1945 年戦争により一時中断しましたが、1949 年小金井に移転、丹羽学部長が「技術者には体力が必要」と陣頭指揮を執られ、教職員・学生の協力の下グランド・設備を整え、塾体育会小金井支部として再開しました。その後、塾内対抗戦、連盟加入をはじめ他大学校との対抗戦などにより交友範囲を拡げてきました。

現矢上支部では 17 部が活躍しています。さらに休部中 4 部（空手部、ウェートリフティング部、端艇部、ヨット部）の復帰を目指しています。

以上の状況に鑑み、体育会活動を通じ何ものにも代え難い仲間との出会いにより得た貴重な経験を活かし、「自尊共生」精神の下、後輩が社会の先導者に相応しい人間力を備えるよう支援することを目的として理工学部体育会先輩団体連合会を 2007 年 10 月に設立しました。

私たち理工学部体育会先輩団体連合会は、体育会諸君が何事にも挫けない健全なる屈強な心身を鍛え、技を磨き、朋友相信じ「より強い個へ、より強いチームへ」と切磋琢磨し「Be a hard fighter Be a good loser」の精神で勝利に勇往邁進できるようサポートし続けます。

創立 75 年記念事業の趣意「世界に通じる人材育成」「グローバルリーダーとしての研究者の育成」「21 世紀の産業界を牽引する人材の輩出」完遂に向け、理工学部体育会先輩団体連合会一同総力をもって活動を継続します。

以上、唯「鍛錬部」から始まる「理工学部体育会および先輩団体連合会」の心事など併せて披歴致しました。

各位におかれましても理工学部体育会に倍旧のご指導ご支援をお願い致します。